

NEWS BRIEFING

空飛ぶ天文台

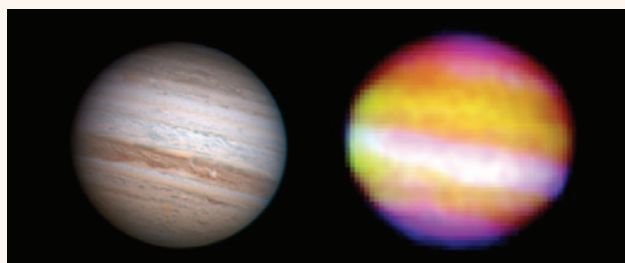
Eye in the sky

2010年6月3日号
Vol. 465 (530)

2010年5月25日、米国のNASAとドイツ航空宇宙センター（DLR）が共同で開発を進めてきた赤外線天文学成層圏観測施設（SOFIA）が最初の空中観測を行い、木星の画像を撮影した（図下右。左は可視光画像）。ボーイング

747SPを改造した機体の穴から2.5メートル望遠鏡で観測を行うことで、下層大気中の水蒸気による赤外線吸収の影響を回避することができる。1996年開始のこの34億ドル（約3100億円）のプロジェクトは、当初から迷走を続け、2006年には、一時NASAの予算から外され、打ち切り寸前になった。科学的運用は2010年10月に始まり、2014年までにフル稼働（年間観測時間800時間）する予定だ。■

（翻訳：三枝小夜子）



J. ROSS / NASA; INSET: A. WESLEY